



INGING MOTORSPORT



INGING MOTORSPORT OFFICIAL WEBSITE OF PAPER [<http://www.inging.co.jp>]

INGING NEWS PAPER 2015 VOL.07

石浦選手、ランキングトップを維持!

GET POINT!

惜しくも表彰台は逃したものの、ポイント獲得で上位キープ



TAKE FREE
無料

Race Report

Round.6 SPORTSLAND SUGO 10/18 Final

決勝 2015年10月18日 スポーツランドSUGO



SUPER FORMULA SUZUKA 11/7-8

Support by cyber net

INGING NEWS PAPER VOL.07 [イナギング ニュースペーパー] 2015年11月発行 通巻7号 発行：株式会社カーバーネット 西日本事業部 〒556-0011 大阪府大阪市浪速区難波中1-12-5 難波室町ビル5F

シリーズポイントを獲得! ランキングトップを維持

Race Report Rund.6 SPORTSLAND SUGO 10/18 Final
 決勝 2015年10月18日 スポーツランドSUGO
 天候:晴れ | コース状況:ドライ 決勝 [3.704 km × 68 Laps = 251.872 km]

2位とは6ポイント差で最終戦対決を迎える

秋晴れの下で行われたスーパーオーミュラ第6戦スポーツランドSUGOで、P.MU/CERUMO-INGINGは石浦宏明が5位、国本雄資が17位という結果となった。予選日に引き続き、決勝日も晴れと心地の良い秋晴れとなった。前日とはほぼ同じ時刻にスタートした第6戦では、石浦、国本ともに決勝用のマシンセッティングを確認し、それぞれピット作業のシミュレーションも行った。午後の決勝レースに備えた。午後2時33分、68周で争われる決勝レースがスタート、3番手スタートの石浦はわずかに加速で出陣し、山本尚貴の先行を許し4番手でオープニングラップを終える。タイヤも比較的フレッシュな状態のレース序盤に順位を取り戻したい石浦だったが、気流の乱れがマシンの挙動に影響を与えるために、数周をかけての接近戦には持ち込めず、前を走る山本のギャップは1秒前後を行ったり来たりしながら周回数を重ねられていった。チームはこの状況を打開するために、ピットインを指示、26周を終えたところで石浦をピットへと呼び戻した。トップ4台の中では最初にピット作業を済ませる形となった石浦は、給油のみの作業で10.9



秒というストップ時間でコースに復帰。見た目の順位は9番手ながら、すでにピット作業を済ませたドライバー勢の中ではトップの位置でレースに戻ることに成功した。この石浦の動きを受け、3番手を走る山本と2番手を走る中嶋一貴も逆周、翌々周にピット作業に向かう。石浦はこの間にコース上でプッシュを重ねて逆転を試みたが、3秒以上も作業時間の短かった山本を逆転することは出来なかった。いっぽうタイヤ作業を突換し石浦よりも作業時間が長かった中嶋は、石浦の目の前でコースに復帰。タイヤの選まらないうちに勝負を仕掛けるべく、石浦は逆転を見せた。バックストレッチやホームストレートではオーバートイクスチームも使いた中嶋の背後にまで迫るが、あと一歩のところまで抑え込まれてしまう。2台の差が1秒も開いた後は、近づきすぎるとダウンフォースが振ってペースを上げることができなかった。レース後に振り返ると、逆転のチャンスをつかめないままレース終盤に入ってしまった。全車がピット作業を済ませた段階で、石浦の順位は5番手まで戻り、チェッカーフラッグ、第2戦以降続いていた連続表彰台は途絶えたものの、シリーズポイントを4ポイント重ねて45ポ

イントとし、依然ランキングトップを維持、2位の国本とは6ポイント差で最終戦対決を迎えることとなった。17番手からスタートした国本は、他車がアクシデントで後退していく中でしわじわと順位を上げ、15周を終了した時点では13番手を走行していたが、石浦同様のマシンに引掛かる形でこれ以上のペースアップができずじまい。チームは前後にマシンのいないスペースで、国本自身のペースで走れるよう、早いピットインを指示。石浦よりも早く、15周を終えたところで国本は給油作業のためにピットへと戻った。11.3秒で作業を済ませると、チームの狙い通り前方にペースを阻むマシンがないスペースで国本を送り出すことに成功。しかし、ガソリンがほぼ満タンで重い状態のマシンではペースを思ったようにあげることができず、国本は17位でチェッカーを受けることとなった。



立川 祐路
 Y.TACHIKAWA
 Team director

肩も同じだと思いますが、近づきすぎるとダウンフォースが振ってしまつたため、前のマシンのペースにつき合わせてしまつたという状態になりました。なんとか状況を察したと、前のマシンよりも先にピット作業にも動き出したが、結果的にはタイミングを合わせてしまいましたね。ただ、チャンピオンシップでは依然リードしていますし、それほど心配もしていません。ここ最近、マシンの調子も石浦のものいいのは確かです。予選から毎レース僅差の戦いが続く中、全部のレースで上手くいくことはなかなかありませんし、いつも速い力を発揮すれば結果でも必ず結果はついてくるという自信は持っています。このまま進めたいように頑張りたいと思います。

国本は今週末、予選から苦戦していました。オーバーテイクの難しいSUGOで後方からのスタートというのは厳しいレースになることは予想していました。オーバーテイクで何かあればと思つて早期に入る作戦を探りましたが、それでも自分のペースで走れずじまい。マシンの方で改善すべき点はあると見えていますが、あまり思いつめることなく気持ちもしっかりと切り替えて、仕切り直して給油に臨みたいと思います。

38
石浦 宏明
 H.ISHIURA
 予選3位 | 決勝5位

レースが始まってみると、常に前に他のマシンがいる状態だったので、自分のペースで思ったように走ることができなかったですね。クルマの調子は悪くなかったのですが、予選でのミスとスタートが上手くいかなかったことで、その速さを活かせませんでした。最終順位は2レースありますが、悪いクルマは何方でも予選で前に出られるでしょう。大量ポイントを獲得するドライバーと、ほとんど取れないドライバーとの差が大きくなるので、(現状の)6ポイント差というのはあまりアドバンテージとは思わないようにしています。チャンピオン争いのメンバーが総論でも前に進んでいこうから、そこに自分も進んで、彼らより前にいないといけないですね。どのカーネットでもメルボルンポジション争いに絡める速さはクルマにも僕にもあるので、集中して頑張りたいと思います。

39
国本 雄資
 Y.KUNIMOTO
 予選17位 | 決勝17位

展開が変わることを期待して早めにピット作業にも入りましたが、平均的にタイムも悪くなく、良いレースになりました。昨日と比べても、大きく改善したとはまだ言えない状態です。最終戦は、思いっきり気持ち良く走りたいですね。2レース制でそれぞれのレース距離が短い予選が重要になると思つたので、ミーティングを重ねて、予選から速く走れるクルマをしっかりと作っていました。

